

IGF2019 参加報告書

提出日：2019年12月26日

作成者：矢田一樹

はじめに

本報告書は、2019年11月25日から29日にかけて、ドイツの首都であるベルリンで開催されたインターネットガバナンスについて議論する国際会議である「IGF2019」の参加報告書である。今回、「IGF2019 参加支援プログラム」による助成を受けて、全日程に参加した。参加した際に出席したセッションと、特に印象に残ったセッションについて以下に述べる。また「IGF2019」への参加を通して得た経験を、今後どのように生かしていくか言及し、本参加に合わせて支援いただいた「IGF2019 参加支援プログラム」についての感想を述べる。本報告書は以下のセクションで構成されている。

- 【1】 参加したセッション名
- 【2】 【1】のうち特に印象に残ったセッション
- 【3】 今回の経験を今後どう生かしていきたいか
- 【4】 参加支援プログラムに対する所感

1. 参加したセッション名

今回、私は以下のセッションに参加した。太字下線の部分は特に印象強いプログラムである。

Day0(11/25)

- Pro-Event 5 - As a stakeholder in the digital transformation, can civil society make its voice heard?(German Ministry of Interior)
- Launch of the Contract for the Web
- Pre-Event 53 - Electricity, Community , Networks and Digital Inclusion: The case of the underserved communities
- Pre-Event 45-GDPR-after more than one year: how to make it happen?
(My Data Global)

Day1(11/26)

- IGF for Beginners Main Session
- NRIs Collaborative Session on Cybersecurity: Discussing the National and Regional experiences in approaches and cooperation for cyber-security and cyber-safety and resilience for infrastructure providers and users

- OF6 ICANN - DNS ,Threats and Opportunities
- OPENING CEREMONY

Day2(11/27)

- DC on DNS issues
- Addressing Terrorist and Violent Extremist Content Online

Day 3(11/28)

- Promoting Data Free Flow with Trust in a Digitally Connected World～
Osaka Track, Biarritz Strategy, and the Future～
- WS 421 IPv6: Why should I Care?

Day 4(11/29)

- WS 403 IPv6 Independence Day: Rest in peace IPv4
- OF 48 Open Forum on DNS abuse and misuse
- CLOSING CEREMONY

2. 1.のうち特に印象に残ったセッション

今回、IPv6 や DNS、GDPR などの個人情報に関する取り扱いなどいくつかのテーマに絞ってセッションに参加した。その中で特に印象に残ったセッションについて以下に挙げる。

OPENING CEREMONY (Day1)

IGF では、11/26 に OPENING CEREMONY が行われた。この OPENING CEREMONY では、ステージでのパフォーマンスやメルケル首相のスピーチなど豪華なセッションになっていて、IGF 2019 の始まりを思わせるセッションであった。

私がこのセッションを選んだ理由は、IGF という国際会議にドイツ国連が関わり首相自らが登壇してインターネット・ガバナンスを議論する重要性をスピーチしていた点である。

インターネットは性善説でなりたっているという話を大学の中で聞いて、ルールはあつてないようなものと感じていた現状で、今回首相が登壇しているのを見て国家も無視できないほどにインターネットおよびそれに伴うデータ流通の価値は高まっているのだと感じ世界の関心度の高さを感じることができた。このセッションに参加したことで、インターネット・ガバナンスについて自分ももっと関心を持って参加していこうと思えたため印象に残っている。

Addressing Terrorist and Violent Extremist Content Online (day2)

本セッションでは、ニュージーランド南島のクライストチャーチで起きた銃乱射事件のライブ配信を取り上げて、テロ組織や犯罪グループが SNS 上に投稿する危険コンテンツの取り扱いについて議論が行われた。クライストチャーチでの銃乱射事件は Facebook 上でライブ配信されていたことが問題となっており、本セッションでは Facebook 社からも一人パネリストとして登壇していた。

私がこのセッションを選んだ理由は、議論の中で挙げられた「SNS 上に投稿する危険コンテンツは帰省をかけて閲覧できないようにするべきだ」という意見に対して、Facebook 社のパネリストが「危険コンテンツに規制をかけていくと表現の自由が失われていくため、安易に規制をかけることはできない」という発言があったからである。私個人としては、クライストチャーチ銃乱射事件については本セッションで初めて知りその事件を見た際に、こういったコンテンツが自由に閲覧できてしまう環境はよくないだろうと感じていたため、Facebook 社のパネリストが規制に対して、反対意見を出したことについて意外性を感じていた。先入観を一度持つと一つの意見に偏って見てしまうものだとこのとき実感し、改めて議論への向き合い方を見直すきっかけとなったセッションであった。

WS 403 IPv6 Independence Day: Rest in peace IPv4 (day4)

「IGF2019」では IPv6 についてのセッションが二つ行われていたが、特に印象に残ったセッションを今回は取り上げる。本セッションは IPv4 アドレスが枯渇している、もしくは枯渇する予想が立っている地域があるなか、IPv6 アドレスに移行していくためにどんな課題があるのか？を議論するセッションであった。

私がこのセッションを選んだ理由は、IPv6 の移行について技術的な面だけでなく学術的な面、機器の普及状況など多様な面で話を進めていた点である。IPv4 アドレスが枯渇していて IPv6 移行が急がれている現状については、中学～高校時代から把握していた。また大学でネットワーク専攻だったこともあり、技術的に移行を行うのが大変という認識はあった。しかし本セッションでは技術的な面ではなく、教育的な面で捉えてエンジニアをどのように教育すべきかとか、機器的な面で発展途上国では、IPv6 に対応している機器を使っているユーザが少なくそれらの機器の取り替えに時間がかかるかなど、多様な面で話を進めていた。その点が私にとって新鮮で、IPv6 移行に対する考え方を広げるきっかけとなったため本セッションは印象に残っている。

3. 今回の経験を今後どう生かしていきたいか

今回、本会議に参加する際の目標であった「インターネット・ガバナンスのイメージを自分の中でまとめる」を達成しただけでなく、インターネット・ガバナンスに対して世界的にどれほどの関心が向けられているのか、また様々な国、様々な立場の人が議論に参加する重要性を知ることができた。

私自身のイメージとして、インターネット・ガバナンスは情勢を反映したインターネット規範であり、確定できるものではないというイメージが今回、会議に参加して感じたイメージである。そのため、IGFのような国際会議を行なって、政府や民間企業、市民など様々な立場の人が話し合う場所を作ってインターネット・ガバナンスについて少しでも関心を高めることが重要だと思った。

また、IGFに参加した際にセッションだけでなく海外の参加者の方と話をする機会があり、私自身の英語力の足りなさを痛感した。自分の話したいことが伝わらないというのは見聞を増やす機会を失っているように感じ、悔しく感じた。しかし、ある一人の海外の方が、「英語はそんなにできないよ。でも、一度話しかけさえすればあとは何とかなるよ。」と語っていただいたことに、海外での会話のハードルが下がったように感じて、緊張がほどよく解けたのを覚えている。

IGFで得た経験を生かして、インターネット・ガバナンスについてもっと興味を持ってもらえるような活動（宣伝）をしていきたい。また、他の海外カンファレンスにも参加して怖じけずに英語を使って参加して聴講および意見発信をしていきたいと思う。

4. 参加支援プログラムに対する所感

海外カンファレンスに参加してみたいという気持ちは大学に所属していた頃からあり、何かのきっかけがあれば是非参加してみようと思っていた。ただ、初海外でいきなり海外というのは不安も大きく、行く機会を見つけられずにいた。そのため、IGF2019参加支援プログラムを通じて、自分が普段意識していなかった「インターネット・ガバナンス」という概念を知るきっかけができたこと。また概念を知るだけでなく、インターネット・ガバナンスを議論する海外に参加するハードルを人的・経済的にサポートしていただいたことは本当にありがたく感じている。改めてIGF2019参加支援プログラムの委員および、協賛団体の関係者の皆様に感謝申し上げます。